

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	-----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	教育施設課長 松本 洋子	電話番号	0852-22-5909
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	理科教育設備整備事業		
目的	(1) 対象	県立学校の児童・生徒	
	(2) 意図	充実した理科教育を受けられるように	
事業概要	充実した科学技術教育を受けられるよう県立高校及び特別支援学校の児童生徒に対する理科教育・並びに数学教育のための設備を充実させる。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			理科備品の充足率	目標値		13.00	13.20	13.60	13.80
		(現有金額+配分計画)/基準金額	実績値	14.20	12.60	13.40	13.65		%
			達成率		96.90	101.50	100.40		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		0.00	0.00				
		実績値	0.00	0.00	0.00				
		達成率		0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	9,513	10,182
うち一般財源(千円)	4,735	5,091

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<ul style="list-style-type: none"> これまで国の経済対策等を活用して県予算増額により整備を実施してきたが、充足率は依然低水準であることに変わりはなく、継続的に整備を行っていく必要がある。 全校 3.65% うち、県立学校 15.12% うち、特別支援学校 7.50%
--

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した設備の更新を行うことにより教育環境を維持しつつ、学習指導要領に対応した設備の新規整備を進めてきたことにより、全体的には充足率が上がり、目標値に近づいてきた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校により充足率にばらつきがある。特に県立高校においては数学設備の充足率の差が大きく、特別支援学校においては理科教育設備の充足率の差が大きい。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎年、各学校に整備要望調査を行い、関係課との協議による整備計画に沿って整備を進めているが、県の財政負担を伴うため、当該年度に整備可能な範囲に限られる。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 充足率の低い学校に対し、計画的な整備を働き掛けていく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> 学校の特色を生かした教育環境整備を考慮しつつ、関係課と連携し、設備の優先度や必要性を踏まえた効果的かつ効率的な教育環境整備を進めていく。
--

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--